

《担当者名》八木こずえ [co-yagi0913@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

精神看護で活用される援助技法を学び、専門看護師として役割機能を果たすための看護援助や治療的介入について演習や事例を通して習得する。また治療的な自己活用のための自己洞察を深める。

【学修目標】

1. 対人関係の理論や考え方について学習し、患者理解や自己理解を深める。
2. 対象の状況に応じて、適切な援助技法を適用し、実践するための基礎的能力を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	対人関係の技法 カウンセリングの理論と技法	対人関係を発展させるためのカウンセリングの理論と技法の基礎を学ぶ	八木
2			
3 }	カウンセリング演習 マイクロカウンセリング技法	マイクロカウンセリングの基礎的技法を学び、ロールプレイによる演習を行う。	八木
4			
5 }	プロセスレコードによる治療的自己活用	問題意識を感じた臨床場面をプロセスレコードに起こし、治療的自己活用についての考察を深める	八木
6			
7	メンタルヘルス支援	現代のストレス社会と気分障害との関連性を概観し、メンタルヘルスの現状とアセスメントについて学ぶ	八木 清水陽平（特別講師）
8	気分障害と復職支援	職場におけるメンタルヘルスクアの現状と気分障害発症後の支援、復職支援について学ぶ	八木 清水陽平（特別講師）
9	リエゾン専門看護師のメンタルヘルス支援：看護師のメンタルヘルスの現状と支援の実際	看護師のメンタルヘルスの現状を理解し、リエゾン専門看護師が行うアセスメントと支援の実際を学ぶ	八木 東谷敬介（特別講師）
10	専門看護師のメンタルヘルス支援：自殺に関わった当事者支援	自殺に遭遇するか、もしくは関わった当事者（家族・医療者）への専門看護師の支援方法や自殺予防の支援を学ぶ。	八木
11	心的外傷の治療理論と看護ケア	事故や天災やよるストレス性の病態を理解し、看護介入について学ぶ	八木
12	専門看護師のコンサルテーション：急性期におけるケア困難ケースへの直接・間接的介入	急性期ケア困難ケースに介入するまでの経路やアセスメント、ケアの組み立てや介入内容など、専門看護師のコンサルテーションの実際を思考過程から具体的に学ぶ	八木 鈴木大輔（特別講師）
13	専門看護師のコーディネーション：慢性期の退院支援困難ケースへのコーディネーション	慢性期の退院支援の困難ケースにおける、介入の経路やアセスメント、ケアの組み立てや多職種コーディネーションの実際について思考過程から具体的に学ぶ。	八木 鈴木大輔（特別講師）
14	専門看護師の倫理調整 1) 倫理的問題と倫理調整	精神看護で遭遇する倫理的課題について学び、専門看護師のアセスメントと調整活動の実際を学ぶ	八木
15	2) 事例のプレゼンテーション複雑で多面的な問題を有する事例の検討	倫理的問題も含め複雑で多面的な問題を有する事例に諸理論を活用したアセスメントや看護展開を議論して深める。	八木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、討議への参加状況（30%）、課題レポート（40%）で評価する。

【教科書】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

1. 宇佐美しおり・野末聖香編集、精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009
 2. アレン・E・アイビィ著 福原満知子訳編 マイクロカウンセリングー学ぶ・使う・教える技法の統合：その理論と実際、1995、川島書店
 3. 熊倉伸宏、メンタルヘルス原論、新興医学出版社、2004
 4. H.Jパラド/L.Gパラド：心的外傷の危機介入. 金剛出版. 2003
- その他随時提示する。

【学修の準備】

技術の修得を目指す科目となるため、カウンセリング技法や治療的自己活用については、講義時間以外にも意識的に技術の修得のトレーニングを心がける事。計画的に事例のプレゼンテーションを準備すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

八木こずえ（看護師・精神看護専門看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

専門看護師のとしての実践経験と教育の実務・研究の反映した講義内容となっている。